



アジサイを訪ねて(第9回)



写真提供：大友 三夫

Contents

1. 園芸雑誌に見るアジサイ人気 池田 正弘
8. 2006,相模原麻溝公園,北公園の現状 座間 由紀子
10. 梅雨の花アジサイ⑥ 山本 武臣
11. 理事会報告
謹告・事務局だより
12. イベント情報

園芸雑誌でたどるアジサイ人気の変遷

池田 正弘

サクラの花便りが北海道から届くようになると、新聞・雑誌・テレビの花便りはアジサイに移り始める。今はアジサイブームとかでアジサイ名所も新しく生れている。また各地のアジサイ名所も賑わいを見せる。

鎌倉に35年余を過ごしてきた者にとってアジサイは最も身近な花でアジサイブームも日々実感してきた。アジサイブームに二つの波があったように感じている。最初の波は昭和40年代の鎌倉の明月院や千葉の麻綿原高原に見られる品種にはこだわらず、一面のアジサイの花がきれいだというアジサイ名所によるブームである。名月院の門前からJR北鎌倉駅のホーム上まで人の列が続き、乗客がホームから降りきらない内に次の列車がまた乗客を運んでくるという頃のことである。

二つ目の波は昭和60年前後から始まるハイドラング主体であったアジサイに、花の変異が豊富なヤマアジサイやエゾアジサイが加わってきたことである。このころから毎年野生のアジサイの名花・珍花が発見された。特に初期はヤマアジサイにすばらしい花が発見され、ヤマアジサイブームといってもよいであろう。それに触発されたようにガクアジサイ・エゾアジサイにも採集の機運が生まれそれぞれの地で変化のある品種が人の目に触れるようになった。それを交配親にしてまた新品種が作出され、アジサイ園芸の厚みはほんの数十年前には考えられないほど増してきた。

この軌跡を当時の園芸雑誌に掲載されているアジサイの品種によって追ってみよう。



▲ ヤマアジサイ



▲ エゾアジサイ



▲ セイヨウアジサイ

★昭和52年 NHK趣味の園芸 6月号 あじさい特集 執筆者 柳宗民

アジサイの故郷とその仲間達で伊豆地方や伊豆七島山地に野生するものをガクアジサイとし、これを母種として生まれたものがアジサイであるとの解説がついている。ガクアジサイの花はガク咲きでアジサイの花はテマリ咲きとの解説つきの写真が掲載されている。この年代ではまだ野生のテマリ咲きガクアジサイの認識は生じてない。花型でガクアジサイとアジサイが区別されている。

ガクアジサイの変種群としてベニガク、山地に野生するヤマアジサイ、コアマチャ、ヒメアジサイ、ホソバコガク等の名前が見える。品種としてのヤマアジサイまたエゾアジサイの捉え方はまだされていない。

★昭和53年 ガーデンライフ 七月号 アジサイとその仲間

○日本のアジサイの仲間 奥山春季

アジサイ近縁種

- ・変異の多いガクアジサイ
- ・北日本型の花の美しいエゾアジサイ
- ・花祭りゆかりのアマチャ
- ・独立種としても扱われるサワアジサイ
- ・伊豆半島の名花アマギアマチャ

アジサイと同属の仲間

- ・蕾の丸いタマアジサイ
(ギョクダンカ、ココノエタマアジサイ、テマリタマアジサイ、ヨウラクタマアジサイ)
- ・矢羽根型の葉を持つヤハズアジサイ
- ・サビタの花としても有名なノリウツギ
(ヒダカノリウツギ、ベニノリウツギ、ミナヅキ、コアジサイ、ノリウツギ、タマノリウツギ、エゾノリウツギ、カワユノリウツギ、オオノリノキ、ビロードノリウツギ)
- ・ウツギに似たガクウツギ
・茎葉が紫褐色のコガクウツギ
- ・装飾花のない刷毛のような花コアジサイ
(シロバナコアジサイ、アマギコアジサイ、チチブアジサイ)
- ・木にはいのぼるツルアジサイ
- ・南国産のカラコンテリギ (トカラアジサイ、ヤクシマアジサイ、ヤエヤマコンテリギ)

○アジサイ、シチダンカ由来考 岡田喜一 (長崎あじさい会)
シーボルトのアジサイ シチダンカのこと



- 甘茶の話 岡田喜一
- アジサイの庭作り、鉢作り 岩井弘則
- アジサイの主な品種と特性 古里和夫

アバダンズ、アルペン・グリユヘン、アルトナ、ベネルックス、ブルーキング、コルサイド・ギュトゲス、クリスタル、アーリー・レッド、エンジアンダム、エルマースタインガー、ユーロバ、フランビーン、グリユン・ヘルツ、ハリーズ・ピンク・トッパー、ホルスタイン、イマキュラータ、キング・ジョージ V、クルイススーパーバ、リンダ、ラブリンネス、マダム・E・モワレール、マラソン、マチルド・ギュトゲス、ミス・ハッピーバーン、モルゲンロート、ミオソティス、パール、プリマ、プリンセス・ビートリックス、サテリト、ロジタ、トライアンフ、センセイション、ベンドーム、マダム・M・マンレンサ 以上35種の名が見える

○コアジサイお宅にも一本 宮崎進平
コアジサイの活着の秘訣が掲載されている。ポン酢 (醤油のはいっていないもの) の300倍液を植え付け後に灌水代わりにたっぷり一度鉢に施す。試してみたが活着率が飛躍的に向上した。

○ハイドランジアの足あとをさぐってみて 脇坂誠
ハイドランジアの母種として19世紀にはヤマアジサイ、ベニガク、アマチャがヨーロッパに渡り多くの母種となった。

○カメラを肩にアジサイめぐり 塚本タケシ
鎌倉明月院、岩船寺、平賀本土寺、長崎市グラバー邸、行川アイランド

★昭和57年 ガーデンライフ 6月号 特集・野生アジサイの変わり花

- 日本の野生アジサイ・変わり花 写真協力 山本武臣・佐藤勇・多田滋
- アジサイの収集と保存にかける夢 山本武臣
アジサイ研究15年の足跡、この花の明日に期待をこめて全貌を綴る。アジサイの新品種の開拓はこれから。
* 私のアジサイコレクション 園芸品種を含めて、日本のアジサイ類 約70種、西洋アジサイ 80種、中国・ヒマラヤ・アメリカ種のアジサイ類10数種あります。他の花木と比較すれば品種の数は多くありません。これまでにアジサイのコレクターはいなかったというだけの話です。
- アジサイ・変わり花 カラー頁の品種解説 山本武臣
☆アジサイ系統
クロジクアジサイ、アジサイ・梅花咲き (ウズアジサイ)、ナデシコアジサイ、黄の斑入りガクアジサイ、黄金アジサイ、アカエダアジサイ、ガクアジサイの八重 (スミダノハナビ)

☆ヤマアジサイ系統
キヨスミサワアジサイ アマチャ ベニヤマアジサイ シロマイコアジサイ
キクザキハイアジサイ (コモチシチダンカ) アマギアマチャの八重 (※シロタエ?)

☆エゾアジサイ系統
エゾアジサイ濃青花 シロバナエゾアジサイ ユキアジサイ ヒメユキアジサイ

☆タマアジサイ系統
ヨウラクタマアジサイ ココノエタマアジサイ ヤエタマアジサイ

○野生アジサイの鉢作り 根矢征

☆野生アジサイと鉢栽培向きの種
ハマアジサイの仲間 ガクアジサイ、シロバナガクアジサイ、八重ガクアジサイ
ヤマアジサイの仲間 オオアマチャ、コアマチャ、シチダンカ、マイコアジサイ、ヤエノマイコアジサイ、アマギアマチャ、キヨスミサワアジサイ、ベニガク、ヒメアジサイ

しかし野生アジサイはまだまだ一般化しておらず、取り扱う園芸業者もごく少なく限られた人達によって栽培されているにすぎません。このため入手はややむずかしい種類ということが出来ます。

- ☆採取して挿し木から育てる
- ☆大鉢で栽培し、野性味をだす
- ☆栽培の実際

○おすすめしたい今月の鉢物 桃井信

☆ミニアジサイ コメット 片手に乗るほどの小さなアジサイです。

☆一度いってみたいアジサイの名所
福井の足羽山公園、神戸須磨浦の鉢伏山、奈良の般若寺、京都の寂光院、鎌倉の瑞泉寺・明月院・二伝寺・明王院・妙本寺・東慶寺・円久寺



▲ マイコ



▲ キヨスミサワアジサイ

★昭和59年 ガーデンライフ 6月号 特集ヤマアジサイの変わり花

- カラー写真 ヤマアジサイの変わり花 山本武臣さんの収集品より
山本御夫妻と口絵解説のアジサイの写真
- ヤマアジサイの魅力と鑑賞 山本武臣
☆ガク花とテマリ花
☆ガク花の魅力・両性花
☆ヤマアジサイとは
ヤマアジサイは変異の幅がとくに大きい
☆私が集めたヤマアジサイ
クロヒメアジサイ、ベニデマリ、マルベンベニガク、ヒメベニガク、タノジヤマアジサイ、シロワビスケヤマアジサイ
☆ヤマアジサイの鑑賞法
ヤマアジサイは清楚で淡白、地味な花
☆ヤマアジサイへの期待

清楚から優美まで幅のある繊細な山草的な野趣に注目する向きもふえてきました。
未開拓の面も大きいので、山歩きの際、注意して探せば鑑賞価値のある新しいものも見つかるのではないのでしょうか。ヤマアジサイの今後には私は大きな期待をかける者です。

○ヤマアジサイの鉢作り 長瀬治

☆野趣に富む七号鉢作り

挿し木で殖やす ポット上げの仕方 上手に花を咲かす 来年も花を咲かす

○ベニガクのミニ作り 押田廣

○口絵解説・ヤマアジサイの変わり花 山本武臣

クロヒメアジサイ、ミヤマヤエムラサキ、シロタエ、シチダンカ、コモチシチダンカ、シロバナヤマアジサイ、イワガク、キヨスミサワアジサイ、タテヤマアジサイ、マイコアジサイ、シロマイコ、ベニデマリ、エビネヤマアジサイ、ホシクズヤマアジサイ、ブルーバード、グレース・ウッド、ロザルバ、ベニガク、ベニヤマアジサイ、マルベンベニガク、オオベニガク、ヒメベニガク、インターメディア、シロワビスケ、ヤマアジサイ、タノジヤマアジサイ、コアマチャ、オオアマチャ、シロアマチャ、ヤエノアマチャ、アマギアマチャ、ツェンベリイ、シダレヤマアジサイ、クジュウアカエダヤマアジサイ、フイリヤマアジサイ



▲ シロタエ



▲ ミヤマヤエムラサキ



▲ シロアマチャ

★昭和63年 たのしい園芸 春季号 アジサイ アジサイ栽培家 山本武臣

○野趣に富む野生種

自然が生んだ野生種のアジサイは華麗さこそありませんが、独特の野趣があり、日本人のわび、さび嗜好にもかないむかしから茶花にもつかわれてきました。これらの中から比較的に入れやすいものをご紹介します。

クロヒメアジサイ、花火アジサイ、コアマチャ、ヤエノアマチャ、シチダンカ、ミヤマヤエムラサキ、エゾアジサイ、ガクアジサイ、マイコアジサイ、江冠雪、ユキアジサイ、タノジヤマアジサイ、ベニヤマアジサイ、ベニガクアジサイ、ミヤビヤマアジサイ、ミヒラヤマアジサイ、ナデシコガクアジサイ

○アジサイは日本原産・花型と花色の変化・アジサイを育てる肥料と土の酸性度

○小型ヤマアジサイの山草風鉢作り シロマイコアジサイ

★昭和63年 趣味の山野草 9月号 ヤマアジサイの魅力 山本武臣

○ヤマアジサイ (野生種アジサイ類) の魅力

私はアジサイが好きで各種アジサイ類をおよそ二百余种、二十年間に渡って栽培しています。小型のヤマアジサイなどの野生種の野趣がすきで、自然の生んだ変わりものに最もひかれます。現在、山野草ブームですが、そのなかにヤマアジサイ類はほとんど登場しません。

山草通でありながらヤマアジサイの鉢植えを手がけておられる方は、私の知る限り神戸の有馬に住む藤井清氏、伊豆宇佐美在住の長瀬治氏、鎌倉鶴岡八幡宮の池田正弘氏ぐらいしかまだおりませんが、これを機会にそうした方がもっと増えることを望んでやみません。

シダレヤマアジサイ、ミドリヤマアジサイ (※ファイトプラズマ?), ミドリボシテマリヤマアジサイ、ヤエノヤマアジサイ (剣の舞)、ヒメユキアジサイ、ヒメベニガク、虹ベニデマリ、丹後貝

咲きヤマアジサイ、九重アカエダヤマアジサイ、ガクヒメアジサイ、ミヤマヤエムラサキ、キヨスミサワアジサイ、クレナイヤマアジサイ、シロマイコ、マイコアジサイ、ホシクズヤマアジサイ、ベニヤマアジサイ、シチダンカ、田の字ヤマアジサイ、コチョウシチダンカ、コモチシチダンカ、花笠、コアマチャ、ミカンバガクアジサイ、ヤエノアマチャ、ミニヤマアジサイの寄せ植え鉢



▲ 丹後貝咲ヤマアジサイ



▲ ヤエノヤマアジサイ (剣の舞)



▲ クレナイ

★平成3年 NHK 趣味の園芸 6月号 アジサイ

○アジサイ花後のせん定 花岡喜重

ヒメベニガクアジサイ、ヤマアジサイ、エゾアジサイ、ベニガクアジサイ、アマチャ、ノリウツギ、シチダンカ、ウズアジサイ、アナベル

○小さく育てる ミニ仕立てのアジサイの山本武臣氏に聞く 山本武臣

アジサイに関してはこの人の右に出る者はいないといわれている。

★平成9年 園芸マニア 7月号 アジサイ その変幻と魅惑の世界 山本武臣

アジサイの世界にも少数ながらマニアは存在します。このたび「変幻と魅惑の世界」と題して、この植物の持つ変異と魅力に焦点を当てて紹介しましたが、アジサイの花色、花形、葉芸、樹芸ならびに花の魅力などをご堪能いただければと思います。

○アジサイの種類

日本固有種 ガクアジサイ、ヤマアジサイ、エゾアジサイ、タマアジサイ
コアジサイ、ヤハズアジサイ

中国、台湾にも分布 ノリウツギ、ツルアジサイ

東南アジアにも分布 日本のコンテリギ (ガクウツギ、コガクウツギ) と同系のもの
日本のタマアジサイに近いアスペラ系のもの

北米東部 アルボレスケンスと柏葉アジサイの仲間

中南米 常緑性のツルアジサイの仲間

○万葉集にも詠まれたアジサイ

○苦難の時期を乗り越えて

○ヨーロッパで人気がでる

○近年の山草ブームで火がつく

○アジサイその魅力と特性

○未来の園芸種

○品種の解説

クロヤマアジサイ、ミカンバガクアジサイ、二種類の中性花 (美方八重)、ミヤケトキワの冬咲きアナベル、斑入りコンテリギ五色葉、キバナコガクウツギ、ココノエ、タマアジサイ、如葉花 (※ファイトプラズマ)、黄冠、花もみじ、猩々、葉が左右不対称のアジサイ、伊豆の華の枝咲き、蓮弁コガクウツギ、花笠、ミヤマヤエムラサキ、エンジアンタム、濃青エゾアジサイ、クレナイヤマアジサイ、シロマイコ、白妙、テマリ白鳥、コチョウシチダンカ、大山十文字、ウンベラータ、マイコアジサイ、三河千鳥、花吹雪、アジサイの超ミニ作り

昭和五十二年から二十年間の園芸雑誌から、全てではないがアジサイ特集の記事を抜き出してみた。昭和の五十年代はアジサイといえばハイドランジアで、その他のアジサイは園芸の範疇にはまだ入っていなかった。著名な園芸家ですらテマリ咲きはアジサイでガク花咲きはガクアジサイ程度の認識しか示していない。おそらくそれで十分であり読者にしてもそれ以上の必要性を認めなかったのであろう。

昭和六十年頃を境にしてアジサイは園芸雑誌上では一般園芸から収集家の世界へと移行を始めた。変わり花が次々と発見されツバキやサツキのように名花には名前が付けられそれぞれが個体として区別がされるようになっていった。アジサイにはガクアジサイ、ヤマアジサイ、エゾアジサイというものがあり、おのおのガク花咲き、テマリ咲き、八重咲きがあるということも知られてきた。その中には珍品のミドリアジサイだと思っていたものが罹病株であったり、発見者、栽培者、販売者が異なった命名をしたり後に名前を変更したりして混乱を招いているものも少なくない。

こうしてふり返って見ると問題点も浮かび上がってくる。まず岩佐会長が強く提唱している品種名の統一と次代に伝えていかなければならない品種の選抜である。ヤマアジサイをかわぎりに始まった新花の採集、販売は本当に鑑賞価値のあるものはどれかを見極めていかなければならない。一つの場所のすべての株が同一個体という場所もあれば谷の株すべてが少しずつ異なる所もある。異なるものすべてに名前を与えては混乱を招くだろう。またそれを販売するにいたつてはいずれアジサイ愛好家の不信が増して健全な発展を阻害しないだろうか。その徴候は既に兆しているように思える。

それにしてもこの三十年のアジサイ園芸は隔世の感がある。と同時に故山本武臣氏のアジサイにかけられていた熱意と大きな足跡を再認識した。

最近の品種



▲ フゲンノハナ



▲ ヨイノホシ



▲ オオツルギ



▲ モモイロヤマアジサイ



▲ ヤマアジサイ (ホウキマル)



▲ ミヤビ

写真提供：池田 正弘・大友 三夫

2006, 相模原麻溝公園、北公園のアジサイ状況

相模原市みどりの協会
麻溝公園管理事務所 座間 由紀子

今年の冬、関東地方は例年のない寒さと乾燥で花芽が被害を受けてしまいました。麻溝公園では、昨年の春から猛威を振るっている※シイノコキクイムシの被害と合わせてダブルパンチです。

昨年、シイノコキクイムシの固体を除去するために2トントラック二杯分の被害枝を剪定し、今年また寒害で枯れた枝をボランティアの手を借りながら剪定しています。

それでも地際から新しい葉を展開しているアジサイを見ると少し希望が出てはきますが…

アジサイフェア

6月10日(土)、11日(日)の両日麻溝公園、北公園で開催されます。

北公園：あじさいの丘を初め園内に260種1万株の洋・和品種を揃え、山本コレクションのコーナーもあります。当日はアジサイボランティアの皆さんが園内をご案内します。

麻溝公園：公園管理事務所多目的ホールではアジサイボランティアの皆さんが丹精込めて育てた花鉢を展示します。園内にはフランスのアジサイ研究科コリヌ・マレさんが来日されたときに頂いた「オタクサ」も植えられています。

当日は両公園とも地生き作業所で育てたアジサイ苗の配布、アマチャの試飲、アジサイはもちろん市価より安い花苗や花木類の販売もあります。



△ 麻溝公園 多目的ホールの展示
平成17年6月の様子

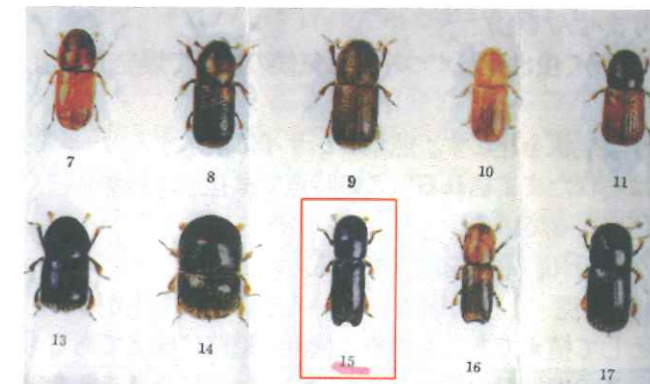
※シイノコキクイムシの被害

昨年の3月、枯れ枝剪定をしていた時に気付いた。シャーペンの先で点をつけたくらいの小さな孔を見つけ折って見た所、中に1ミリにみえない幼虫が一箇所に三四固まってかすかに動いていた。穴のあいた枝は中のコルク状の芯が黒く変色している。

枯れの酷い株の根元を切って見ると、黒光りする1ミリくらいの甲虫がぎっしり詰まって越冬していた。テントウムシが固まって越冬しているのを見た事があるでしょうか？あれの超縮小版と想像して下さい。

事務局の杉本先生に石川県の松枝先生を紹介していただき早速同定をお願いしたところ、ハンノキクイムシの近縁種と言うことでした。

同時に群馬県の坂本先生に送ったサンプルを群馬県農業試験場が検定した結果、シイノコキクイムシと言うことがわかりました。



赤線で囲んだのがシイノコキクイムシ。体長1.3~1.7mm。

余談になりますが、テントウムシはアブラムシの天敵で、昨春関東一円にアブラムシが大発生したとき、(もちろん当公園でも) 農薬を使う前に捕食してくれたと言う快挙を成し遂げましたが、このシイノコキクイムシはアジサイの種類を選ばず、硬いタマアジサイでさえもただ食べ尽くしてしまっただけです。神は不必要な物は作らなかったと言いますが、この甲虫は何処かで※益をなしているのでしょうか?

坂本先生から送られた資料を記します。

●シイノコキクイムシ (*Xylosndrus compactus*)

シイノコキクイムシの概要 「日本農業害虫大辞典」より

コウチュウ目、キクイムシ科。成虫は体長1.3~1.7mm。黒色で光沢があり、円筒形。微細なキクイムシであり、各種広葉樹に寄生することが知られている。アジサイの生枝に食入して枝枯れを起こす。カキ、チャ、オリーブの害虫としても登録されている。本州以南の日本各地及び中国、熱帯地方に広く分布する。※北アメリカにも比較的最近侵入したといわれる。

●キクイムシ類について 「一目でわかる果樹の病害虫」より

1. 発生の経過

生活環：卵(孔道内)⇒幼虫⇒蛹⇒成虫(有翅)

成虫の食入期：4月上旬~5月上旬、7月上旬~8月上旬(年二回発生)

越冬形態：成虫が孔道内に集合して越冬する。

2. 防除

食入を見つけたら被害部に有機リン剤の塗布剤を塗るか、食入孔から有機リン剤を注入すると効果が高い。寄生を受け、回復の見込みのない木は早めに伐採し、焼却する。

3. その他の事項

樹勢が弱くなると寄生を受けやすくなる。孔道真生も幼虫の餌となる共生菌(アンブロシア菌)を培養するが、この菌によって木質部の腐敗、衰弱、枯死を引き起こすため、被害を発見したら早めに処置を行う。

※ アンブロシア菌~成虫が食入して産卵をするとき、菌を培養して幼虫の餌にする。孔道は枝や幹の中心部に作るため、侵入を受けた枝や幹は中心部から黒変し枯死する。侵入口からは黄色の粉末状の木屑を排出する。 「日本農業害虫大辞典」

麻溝公園の経過

麻溝公園で最初に被害にあったのはアナベルでした。平成12年6月下旬にハイドランジアの品種同定をお願いしていた杉本先生、坂本先生と一緒に園内を回っていたとき、群生しているアナベルの一本が萎れていました。

折って見たら中が黒く変色していて、先生方は抜いて捨てるようにと言われました。

そのときは原因が何かわかりませんでした。

それから6年経過したわけですが、虫は少しずつ増殖し気候の影響で爆発的に増えてしまったと思われます。

① 夏に何度も水切れのような症状を起こす。照葉アジサイは灌水すると一時的に復活するが、次の日また萎れる。アナベルや和品種は萎れたまま枯れる。この時点では孔道はわかりにくい。

② 折って見ると、芯が褐色になっている。

③ 開花時期に新枝の途中から折れ、木屑を噴いている。

④ 10年以上の株で植栽地盤が悪く、土が締まっているところに発生が多い。

(麻溝公園周辺に街路樹として植えてあるものや、横浜水道路に植えてあるものも平成4年、第9回都市緑化フェアから植栽されているので地盤の悪いところは全滅状態になりました。)

⑤ 冬期落葉しているとき、樹肌に微細な穴がある。

以上のような症状が出たら、シイノコキクイムシを疑ってみてください。この甲虫は本来、熱帯にいる虫で、地球の温暖化と共に北上したと想像されます。

「北アメリカにも比較的最近侵入したといわれる。」と記されていますが、昨年の秋にアメリカ・ワシントン州でクレマチスとアジサイの研究をしているモーリス・ホーンさんが来園されました。シイノコキクイムシを説明するとやはり知っておられました。

予防策は、古い枝は株元から剪定し常に株の更新をはかる。植栽場所が踏圧などで硬くなった場合は休眠期に腐葉土などを梳きこむ。

家庭で植栽条件のよい場所で数株植えられている場合は、近くで大発生していない限り問題はないと思います。

ただ、公園など大規模植栽をしている場所では伝播しやすい。造成地や特に公園などは建設残土の上に植物の成長に最低限必要なだけの盛土をしている為に、ある程度年数が経過すると根にとってよい条件と言えなくなってしまう、樹勢がおとろえる。

場合によっては施肥も必要。(最近ハイポネックス社からアジサイ用マグアンプKが出ています。NPK比=7:18:7ですので、青系、赤系どちらでも使用可。マグネシウム、カルシウムも入っているが値段も良い。)

しかしながら、この熱帯からやってきた小さな虫は益を成さないのではなく、私たちに地球温暖化と言う大きな警告を告げる使者としてやってきたのかもしれない。

梅雨の花アジサイ6

シーボルトの妻の面影

山本 武臣

江戸時代、医務官として長崎で暮らしたシーボルトの名前とその残した偉大な業績はあまりにも有名だ。そのシーボルトが日本のアジサイにオタクサの学名をつけたことを知る人も多い。オタクサの名前の由来が彼の日本人妻、楠本タキであることが分かったのは大正時代も末になってからである。

彼はタキさんのことをオタクサンと呼んでいた。当時、この事実は日本の学界に衝撃を与えた。シーボルトは6年間日本に滞在した後、故国に帰り、「日本植物誌」(フローラ・ヤポニカ)を著したが、この中で取り上げた総数150のうちアジサイに関するものは17にも及んでいる。

そのため、彼は特別にアジサイを好んでいた、との定説が出来た。これは彼が弟子の高良斎に書かせたオランダ語の論文「テマリバナ」に基づくことが判明した。

シーボルトは同じく弟子の高野長英に「茶」の論文も書かせている。彼は日本の茶についても深い関心を持っていた。シーボルトが密かにオタクサの名をつけた直接の理由は長崎に来て欧州ではピンクに咲いていたアジサイが青く咲いているのを見、それが当時17歳だったタキの初々しいイメージと重ね合ったからであろう。

シーボルトがドイツの画家に書かせた美しい絵と共に紹介した日本のアジサイ類はアジサイの自生のない欧州人の関心を強く引き、後にこれが膨大な量の西洋アジサイの作出に繋がったともいえる。

アジサイの歴史に浪漫の影は薄い。唯一の例外はオタクサだろう。シーボルトがオタクサと名付けたアジサイは今でもフランスに残されていて、コリーヌ・マレーさんという同国の研究科が3年前、持って来てくれた。それは古くからの日本のテマリ花で後に麻綿原高原に群植されたものと全く同じものだった。

※ 毎日新聞の好意により、平成9年梅雨期に毎日新聞に掲載された「梅雨の花アジサイ」を掲載しています。

理事会報告

平成18年3月25日 午後1時 横浜東急ホテルにて開催 理事八名出席

議事要約

- * 顧問就任の件
東京大学の難波先生、大庭先生に日本アジサイ協会の顧問への就任をお願いしては如何だろうか。
岩佐会長に顧問就任のお願いをしていただく。
- * 品種の確定、品種名統一の件
日本アジサイ協会として将来とも保存していかなければならない品種を選定し品種名の統一、固定化を図る。ある程度の品種の協会への登録がまとまれば国内、国外へ向けての品種リストを作成し品種の登録、海外での販売契約への道筋を模索し将来の協会の経済的基盤の確立を目指す。
- * 日本アジサイ協会認定アジサイ見本園の件
府中市ふるさと博物館より園内アジサイ品種確認の依頼があり、杉元理事が出勤。その折、アジサイ見本園として府中市ふるさと博物館で受け入れの用意がアルトの意向が寄せられた。
関東地区の日本アジサイ協会認定見本園として協力しては如何であろうか。
- * 原稿がなかなか揃わず会報の発行が遅れ気味である。次号の原稿を四月中旬目途に心当たり依頼をお願いしたい。
- * 平成18年度総会の件
昨年は兵庫県の三木市で開催したので関東地区で候補を定めたい。静岡県の伊豆下田を中心に総会と伊豆の原生アジサイ探訪を企画してみる。現地との交渉は杉本理事に一任する。

謹告

岩佐吉純会長がかねてより自宅療養中のところ5月31日ご逝去されました。6月1日に通夜、翌2日に告別式が横浜で行われました。

岩佐会長は当日本アジサイ協会において平成15年に理事、翌16年には会長に就任されました。短い期間でしたがアジサイの分類、品種の確定・登録、世界に向けての販売権等の指針を示され、豊富な知識と経験、人脈をもとに協会の組織水準の向上を諮られていましたが道半ばで大変残念なことです。私も日本アジサイ協会にとっては大きな痛手ですが少しでも御遺志が実現出来るよう努力をしたいと思えます。

元株サカタのタネ専務取締役・顧問、園芸文化協会副会長、エキスポ90花博コンテスト委員・審査員等を歴任され享年は75才でした。

ご冥福をお祈り申し上げます。

◎事務局だより◎

- ☆ 総会は別にお知らせしました通り伊豆の下田で行われます。
- ☆ 次号の原稿は9月中にお送り下さい。今号は「アジサイおちこち」が原稿が少ないため掲載出来ませんでした。各地、各所のアジサイを写真(二枚程度)付きで紹介下さい。
- ☆ 急告 ファイトプラズマ罹病株と思われるアジサイが、まだミドリアジサイの名前で市場で販売されています。注意を喚起してください。

イベント情報

五月～

・ささゆりとあじさい祭り

名称：奥山高原
期間：5月27日(土)～7月2日(日)
入場料：3歳以上一律500円
住所：静岡県浜松市引佐町奥山堂ノ上1736-1
連絡先：TEL 053-543-0234 FAX 053-543-0235
ホームページ：
<http://www.okuhamanako.com/okuyamakougen/>
備考：約2千株の珍しいささゆりと、1万株の「あじさいの丘」。「日本のあじさい展」同時開催。

・世界のあじさい展

名称：新潟県立植物園
期間：5月31日(水)～7月17日(月・祝)
入場料：大人 600円
小中学生 100円(土日祝日無料)
シルバー(65歳以上) 500円
住所：〒956-0845 新潟市金津186
連絡先：TEL:0250-24-6465 FAX:0250-24-6410
ホームページ：
<http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>
備考：月曜休館(但し月曜が祝日の場合は火曜)

・としまえんアジサイ祭

名称：としまえん
期間：5月27日(土)～7月2日(日)
10:00～17:00
入場料：としまえん入園料
大人(中学生以上) 1000円
子供(3歳～小学生) 500円
あじさい祭り中 40歳以上の方 500円
「豊島園庭の湯」平日会員の方 400円
連絡先：TEL 03-3990-2900
ホームページ：
<http://www.toshimaen.co.jp/index.html>
備考：150品種1万株。

六月～

・郷土の森あじさいまつり

名称：府中市郷土の森博物館
住所：東京都府中市南町6-32
期間：6月1日(木)～7月2日(日)
10:11日あじさい苗の販売(9:00～17:00)
入場料：大人200円 中学生以下100円
4歳未満無料
連絡先：TEL 042-368-7921 FAX 042-360-8217
ホームページ：
<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/index.html>
備考：約30種、1万株。期間中、園内にてあじさいやあじさいまつりを題材にした俳句を募集。
あじさいまつり期間中は茶室「梅樹庵」にて、お抹茶に「あじさい餅」を毎回先着20名(一服300円)。

・三室戸寺(西国観音霊場十番札所)

名称：三室戸寺 あじさい園
住所：宇治市菟道滋賀谷21
期間：6月1日～7月9日
入山料：500円(小人300円)
連絡先：TEL 0774-21-2067
ホームページ：<http://www.mimurotoji.com/>
備考：京都を代表するアジサイの名所、1万株。
本年のあじさい園の開園(6/1～7/9)。
あじさいライトアップ6/10～6/25の土・日曜
ライトアップ時のバイオリン生演奏6/11、
18、25の3回開催(雨天中止)。

・おごせあじさい山公園

名称：おごせあじさい山公園
住所：越生町麦原686
期間：6月10日（土）～7月9日（日）
6月24日東武のあじさいハイク
7月1・2・8・9日 あじさい無料花つみ企画
入園料：200円（自然環境保全協力金）
連絡先：049-292-3121 越生町観光協会
ホームページ：
<http://www.town.ogose.saitama.jp/>
備考：越生ばやし、梅童大鼓のイベント有り。

・あじさいフェア

名称：相模原市麻溝公園・北公園
期間：6月10日（土）・11日（日）
入場料：無料
連絡先：042-777-3451
ホームページ：相模原市みどりの協会
<http://www.sagami-hara-green.or.jp/>
備考：アジサイボランティアによる花鉢の展示（麻溝公園）、園内案内（北公園）有り。

・内船公園

場所：山梨県南部町
JR身延線内船駅下車徒歩10分
期間：6月15日（木）～6月25日（日）
入場料：無料
連絡先：南部町役場産業振興課
TEL 0556-64-3111
ホームページ：南部町役場HP
<http://www.town.nanbu.yamanashi.jp/>
備考：2.5ヘクタール 70種2万5千株

・府民の森ぬかた園地

名称：府民の森ぬかた園地
住所：〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8
期間：
あじさい散歩 6月10日（土）～7月9日（日）
あじさいまつり 6月30日（金）～7月2日（飛）
連絡先：財団法人大阪府みどり公社 緑化部
TEL 06-6266-1038 FAX 06-6266-8665
ホームページ：大阪府民の森
<http://www.osaka-midori.jp/mori/index.html>
備考：種類以上25,000株

・あじさい園—色彩の王国—

名称：東京サマーランド
期間：通常営業 10時～17時
6月10日（土）～7月9日（日）
あじさい夜まつり営業 10時～21時
6月24日（土）・25日（日）
入場料：大人（中学生以上）500円
子供（2歳～小学生）300円
ホームページ：<http://www.summerland.co.jp/>
備考：3万ヘクタールに約60品種、約1万5千株。

・ふじとあじさいのプロムナード

名称：ふじとあじさいの道
場所：埼玉県騎西町
騎西町生涯学習センター（キャッスルきさい）
～玉敷公園
期間：アジサイの見頃 6月中旬～7月中旬
あじさい祭6月18日（日）
（雨天の場合25日）
ホームページ：騎西町公式HP
<http://www.town.kisai.saitama.jp/index.html>
連絡先：騎西町観光協会 TEL 0480-73-1111

七月～

・あじさい祭

名称：みちのくあじさい園
住所：岩手県一関市舞川宇原沢111
期間：7月1日（土）～7月30日（日）
入場料：おとな600円 こども300円
連絡先：0191-298-2349（開園期間中）
0191-28-2345（期間外）
ホームページ：
<http://www.h4.dion.ne.jp/~mi-aji/>
備考：杉林と250種2万5千株のアジサイの競演